



カトリック長崎大司教区  
広報委員会  
〒852-8113  
長崎市上野町10-34  
カトリックセンター内  
Tel. 095-843-3869  
Fax 095-843-3417  
振替口座 01880-5-2699  
発行人  
大木文隆  
印刷所  
株式会社 藤木博英社  
〒850-0852  
長崎市万屋町5-13  
Tel. 095-821-2146  
Fax 095-821-2148

## 日本管区長シエガレ師に聞く

# パリ外国宣教会と長崎

5月26日から30日にかけて、長崎を会場にパリ外国宣教会アジア地区司祭団の研修会が行われ、その折に同会日本管区長のオリビエ・シエガレ神父(写真)に話を聞くことができた。1865年、プチジャン神父と潜伏キリシタンたちとの出会いという喜びの体験を共有するパリ外国宣教会と長崎の教会。現代に生きる宣教師たちの姿から私たちも何かを感じ、学びとりたい。



### 長崎で開催された研修会の意義

今回の研修会はパリ外国宣教会の生涯養成プログラムの一環で、アジア(インド・日本)で働く神父、つまり宣教の場で働いている神父たちが、60人余り参加しました。始めに雲仙で若手司祭の研修があり、その後全員が長崎で合流、全体の研修会へと続きました。

若手の研修は毎年開かれ、全体のそれは2年に一度。研修会

### 聖画が145年ぶりに帰郷

プチジャン司教が第1バチカン公会議(1869〜70)の折にフランスに運んだとされる、長崎キリシタンゆかりの絵の返還式が5月29日、中町教会で行われた。

資料(高見三司大司教記)によると、聖母マリアが描かれた水彩画は、ローケーニユ神父がoustekema(浦上?)の老人からもらったものだ



ジョルジュ・コロンブ神父から、高見大司教に手渡された(下段写真)。

の内容は大きく2つです。1つは、宣教をテーマにした勉強会。毎回パリから講師を招いて話を聴きます。イエスさまが求めている今の宣教とは何なのだろうか」と確認します。2つ目は、交流と分かち合い。私たちは、交流と分かち合いは一番大切だ。なぜなら、アジアは広くて皆バラバラ、非常に孤独な人種。例えば、タイの少数民族は1人ぼっちで、毎日、村を巡回し、山などで移動も大変。若さゆえ分からないこともまだまだある。言葉も難しく、孤立している。だから最低1年に一度、お互いに仲間と会い、悩みを打ち明け、励まし合うという意味もこの研修会にはあります。これまで、インド、タイ、マカ

オ、香港など、パリ外国宣教会の宣教師にゆかりのある場所で開催してきました。日本は初めて、しかも長崎での開催は、私たちにとって宣教の原点に立ち戻るといって意義深いものになりました。皆が何らかの役割を担い、研修会は大成功でした。出津、浦上、西坂、そして大浦天主堂を訪れた司祭たちはとても喜んでいました。聖堂の雰囲気は美しいし、プチジャン神父様の発見の場所でもあるし……。

実は、私たちは「信徒発見」という言葉はきらいなんです。なぜなら、隠れていた信徒たちは自ら出掛けて行き、信仰を表した。信徒たちにとって信仰表明は自然なこと、同時にすごく勇気があったことだと思います。プチジャン神父様が「信徒

を発見した」のではない。大事なことなので、私たちの考えを(教報で)伝えてほしいです。

### パリ外国宣教会のモットー

1927年、長崎に邦人司教区が設立されました。パリ外国宣教会の方針として、教区ができたときすべてを教区長に譲って私たちは別のところに行く。これはローマ(バチカン)も望んだことで、それで宣教会は長崎を離れた。開拓宣教の時代は過ぎ、教区の組織がどこにもできた今、宣教会の役割の1つは、「ゆさぶり」をかけることだと思っています。宣教師は基本的に外の人。だから、言うことができる。そこに私たちの存在意義があります。会のモットーは、①外へ②時間的な長い関わり③キリストを知らない人たちのところへ、という宣教に関わる3原則。①は自分の国以外の国へ、また教会の外へという2つの意味があります。②は一生その地にとどまるという意味。③は救いを求めているけれどもキリストを知らない人たちのところへ行くという意味。

今、日本には18人の宣教師がいますが、私たちはずっと他の国に行かない。叙階の時に派遣先をいただき、一時的ではなく一生関わっていきます。「一粒の麦が地に落ちて死ねば、多くの実を結ぶ」という霊性です。私たちは日本の司教様の指示に従って働き、たいいてい司祭不足のため、教会で主任・助任の仕事をする。できるだけできる限り外へ出て、家庭や施設の訪問、ホームレスや疎外されている人たちに会っていき、それが私たちのミッションです。司牧でなく宣教。地区制度に縛られ外に出向か

A2サイズほどの紙に、無原罪の聖母を囲んで、フランシスコ会員が修道服を着けるときにしめる帯紐が描かれている。帯紐の3つの結び目は、清貧・貞潔・従順の3つの誓願を表す。その下はアシジの聖フランシスコとパドバの聖アントニオ、聖クララ、他2人の聖女。専門的な鑑定は今後行われる予定。

もあり、本来の精神に戻ろうと、今のモットーがあります。

### 危機感から生じる希望

かつて1987年と93年に開催されたNICE(福音宣教推進全国会議)。内に閉じこもりがちだった日本の教会が、この会議によって教区、修道会、宣教会、皆でもっと協力し合おうと前向きな姿勢が生まれまし

た。私自身もすごく燃えて「これが第2バチカン公会議の方向性だ。やつと日本は成熟した教会になった」と希望が膨らみ、司教団を中心これから進むべき方向を皆で決めるのだ、私たちが退くときがそろそろ来るんじゃないか、と思うようになりました。しかし残念ながら今、会議が非常に増えて、司教様たちは自分の教区にいない。人々との関わりが薄くなってしまいました。そして最近の教会は管理的で、いつも鍵が掛かり、司教館を訪ねても神父様がいない。直接、顔と顔を合わせる機会が少なくなり、決していい現象ではありません。

私は東京の真生会館というところで働いていますが、そこにはいろんな信徒の活動があり、日本の教会に対して危機感を抱いている人が結構多いです。現状ではこの先教会は続かないという危機感。私は、危機感を持つことがまさに希望だと思っています。危機感を持つて、そこから新しいものを求める、探す。これまでの流れを振り返り、これからの時代にどう対応するか――。聖霊のはたらきを信じ、皆で一緒に考え、協力し合ったら、大きな実りがあると思います。

### 世代を超えて学び合う姿勢を

私は25年間青年たちと関わっていますが、心掛けているのは彼らのありのままを受け入れるということです。私たち宣教会の中でも、世代間で

6月6日、バチカンにおいてフランシスコ教皇と安倍晋三首相の会談が行われた。報道によると、安倍首相は教皇の訪日を要請したとされる。これを受け、日本カトリック司教協議会会長・岡田武夫大司教(東京)は7日にコメントを発表し、あらためて教皇の訪日を切望するカトリック教

会への理解と協力を求めた。要旨は以下の3点。①教皇にはこの機会に

### 安倍首相の教皇訪日要請の報道を受けて

第二次世界大戦へ至る歩みを振り返り、戦争を放棄する平和憲法を制定し、世界への平和貢献を果たしてきた。戦

争放棄をこれからも世界に発信し続ける日本国民を力づけ、励ましていただきたい。③キリシタン大名の高山右近の列福実現を期待している。かなうならば、列福式を教皇自身が日本で行ってくださるなら、大きな喜びである。(全文はカトリック中央協議会、教区のホームページにて)



大司教館にて

のままを受け入れ、理解する。理解するだけでなく、学ぶ。互いに学ぶべきことはたくさんあります。教会の中でも、そのような姿勢があるといいと思います。

真生会館での関わりの中で、付け加えなければならぬのは癒やしを求めている青年もいるということ。うつ病、無縁社会、職を見つけないことができない。いろんな現実の中に生きる彼らの話に聞く耳を持つこと。ただ、それはとても大きな負担でもあります。だからある意味で青年とつきあうのはすごく疲れる。彼らの中に苦しんでいるキリストが叫んでいる、そういう気持ちで聞かないといけないと思っています。

### 長崎の教会について

長崎の教会は、長い歴史の中で民衆・人々の中に密着し発展した宣教の成功例だと思いま



中町教会での絵の返還式

長崎のある若い神父様が私に言いました。「私たちは殉教の上に建てられた教会だから、つぶれない。信仰はそう簡単に消えないと思う」とそれを誇りとして自信を持ち、語っていました。確かにそうだと思います。長崎の教会がなければ日本の教会は成り立たない。長崎という礎の上に日本の教会があります。長崎の皆さんは、その恵みに気づき、もっと喜んでいいと思います。



はじめに

2014年5月4日午後2時45分、浦上教会において、高見三明大司教司式のミサで教区シノドスが開会した。ミサの中でシノドス議員は大司教から任命書を受け、信仰宣言と教区シノドス任務遂行誓約を行った。議員たちの緊張した姿には初めての教区シノドスに向かう覚悟が現れていたし、それを後押しする信徒の祈りにはシノドスへの期待が込められていた。

しかし、シノドス本会議ではまだ教区の盛り上がりにかけているとか、教区が本気になっていないのかの覚悟が見えないとの意見があったが、それはシノドス中央委員会が信徒に周知させる努力が足りなかった結果、教区シノドスに関する信徒の関心の薄さや、シノドスの結果、教区が刷新されるかどうかの期待の小ささから出たのかもしれない。

第2バチカン公会議は聖職者中心の位階制構造に偏っていた。それまでの教会のあり方に、もう一つ別の教会構造があることに気付かせた。それは、洗礼の秘跡によって神の子とされた者全員からなる平等者の共同体でもあるということである。

第2バチカン公会議は聖職者中心の位階制構造に偏っていた。それまでの教会のあり方に、もう一つ別の教会構造があることに気付かせた。それは、洗礼の秘跡によって神の子とされた者全員からなる平等者の共同体でもあるということである。

そのために、1983年に出された新しい「教会法」は、それ以前には教区シノドス議員は聖職者だけが構成員であると規定していたが、それが奉獻生活者と信徒も教区シノドス議員として招集され得るし、また選ばれたならこれに参加する義務を有する(教会法463条)と変更したのであった。そこには教区全信者が教区の問題にそれぞれの立場で各々責任があることを意味している。その意味では、今年開かれている教区シノドスに教区全信者がそれぞれの立場で関わっていることを意識する必要がある。

長崎でのシノドス

長崎でのシノドス

以前に長崎において日本と朝鮮の第1回シノドスが開かれた。今回の教区シノドスは教区レベルではあるが、同じ長崎において開催される大きな出来事と言わざるを得ない。

日本と朝鮮の第1回シノドスは、信徒発見25周年祭を兼ねて開催された。1890(明治23)年3月2日、大浦天主堂でシノドスの開会式が行われたが、25年前までは公に祈りができなかったし、役人の目を気にしながら大浦天主堂に参詣していたのに、この時とばかり2千5百名ほどの信者は堂々と浦上から行列を作りロザリオを唱えながら参詣した。この信者の盛り上がりはシノドスへの期待の大きさでもあったであろう。さらにシノドスを兼ねた信徒発見25周年記念の3月17日には特に盛大な儀式が行われた。司教3名、外国人宣教師20名、邦人司祭15名、神学生45名、信徒2千名余りが大浦天主堂に参集して祝賀した。こうした祈りに後押しされた司教シノドスでは、「布教の方法」「信徒の教育」「邦人神父の養成方法」を一定にする議題を話し合ったのであった。

## 教区シノドス開催

連載・教区シノドスから恵みの年へ⑩

教皇レオ13世

はこうした日本の

の教会の動きに

呼応してか、翌

年1891年6

月15日付で、日本教会に正規の教

会制度を確立し、東京・長崎・大阪・

函館の4教区の昇格(東京は大司

教区)を決定し、これまでの代牧

区(位階制が確立されていない布

教地を使徒座代理区長が司牧する

部分教会)を廃止した。これによっ

て、クザン司教が、長崎司教区の初

代司教となった。

信徒発見25周年の祝いを兼ね

て、日本と朝鮮の第1回シノドス

らにシノドスを兼ねた信徒発見25周年記念の3月17日には特に盛大な儀式が行われた。司教3名、外国人宣教師20名、邦人司祭15名、神学生45名、信徒2千名余りが大浦天主堂に参集して祝賀した。こうした祈りに後押しされた司教シノドスでは、「布教の方法」「信徒の教育」「邦人神父の養成方法」を一定にする議題を話し合ったのであった。

長崎教区のこれから

が開催されたが、それを機会に当時の教区は大いなる盛り上がりを示した。今回も大司教は信徒発見150周年の祝いを兼ねて、教区シノドスを開催し、教区の問題解決を図りながら、教区が大いに盛り上がることを願っている。

さて、今回のシノドスを通じて、長崎教区は何を目指すのであろうか。時代の流れに大きく影響され、家庭そのものの状況が大きく変わってきた。そのために何事も合理的に、損得勘定で判断し、物だけでなく人のいのちさえ簡単に損ねてしまいかねない状況である。そうした中で、信仰に基づいて問題を解決しようとするのが難しくなってきた。私たちはこうした問題に信仰を持ってどのように取り組めば良いのであろうか。

(引用・参照)

中島政利著『福音伝道者の苗床』

片岡弥吉著『長崎のキリシタン』

教区シノドス中央委員会

委員長 山脇守

# 教区シノドス第1会期を振り返って

はじめに

長崎大司教区は教区シノドスを開始した。長崎教区ではかつて司教シノドスが、長崎で開かれた経験を持つてはいるが、何しろ125年前のことであり、教区シノドスとしては初めてのことである。2010年に、高見大司教は手探りの状態ではあったが、シノドスの日程をあらかじめ4会期をめぐりに開催しようと決めた。その日程が、5月4日～6日、7月20日～21日、9月14日～15日、そして11月2日～3日である。場所はいずれも長

崎大司教館である。早速、準備委員会が設立されたが、その準備の進展が思うに任せず、ついに2013年4月に高見大司教はシノドス中央委員会を設立し、委員会に教区シノドスに向けての直前の準備を命じた。それを受けて、中央委員会は「教区シノドス開催指針書」と「基本理念」を作成し、この「指針書」に基づいて作業を開始し、いろんな問題はあったが、ようやくシノドスにこぎ着けた。今回はその第1会期であった。シノドス議員、信徒23名、シスター9名、司祭25名(1名欠席)、合計57名がシノドス本会議

に臨み、長い問討行錯誤の結果作成された12の「提言案」について、まずは内容の共通理解のための意見交換を行った。

## 1.「提言案」作成の経過

高見大司教が、長崎大司教区の教区長として着座し、「参加し、交わり、宣教する教会をめざして」を教区の司牧のモットーとした。しかし、時間の経過とともに遅々として結果が見えてこないことか

ら、信徒発見150周年の記念を機会に、教区の刷新を図るために2014年に教区シノドスを開催することを決定した。これは、司祭評議会の過半数の同意ならびに顧問団の賛成を得て決定したことであった。しかし、大司教はこの時、教区一丸となつて教区の刷新を図るには、シノドスの「提言案」は信者からの意見に基づいたものでなければならぬことに重点を置いたのであった。

早速、シノドスのための準備会が設立され、準備要綱を作成しそれに従って準備が開始された。まず、教区シノドスで審議するテーマを提出するよう教区全信者に求めた。しかし、初めての教区シノドスである。信者にとってシノドスの意味さえよく分からないのに、何を話し合えば良いのかなど理解することは困難で

もらい仮「提言案」作成に役立ててもらった。さらに司祭団全員にも配布し、あらためて小教区、地区ごとに話し合いを持っていただき、同じように問題点を絞ってもらった。

## (2) 研修会

アンケート集計に伴い、シノドスを理解してもらうために、6月に司祭団の研修会を行った。宮川俊行神父様に「教区シノドス」というテーマで基調講演をしていただき、続いてアンケートの集計の意味、それに信者の意見の分類の説明をあらためて行った。

さらに11月には「司祭研修会」を信徒も加わることができるように「シノドス研修会」と改め、1泊2日の予定で開催した。この時は、大きなテーマごとにグループ別で話し合い、その結果を発表してもらった。さらに研修会での議事録を作成し、参加者全員に配布した。それは話し合った結果を受けて、先に提出していた仮「提言案」の内容をさらに深めるためであった。

2回の研修会の間には、本部を長崎教区に置いている3女子修道会本部を訪問しシノドスに関する説明を行い、シノドスへの理解を深めてもらった後、修道会にもアンケート集計などを基に仮「提言案」を作ってもらうようお願いした。

## (3)「提言案」

アンケートの集計、それに添えられた意見の集約、諸活動委員会、地区、女子修道会、顧問会から提出された仮「提言案」を6つのテーマに絞り込んで(1 宗教・公益性、2 財政、3 養成、4 行政、5 宣教、6 信仰生活)分類した。そしてそれについて司祭、信徒に話し合ってももらった結果、次第に問題点が絞られてきたのを受けて、中央委員会が仮「提言案」を作成することにした。早速、それを半年前には既に候補者として選ばれていたシノドス議員に配るとともに、2014年1月の「カトリック教報」に掲載した。





開会式での教区シノドス任務遂行誓約(5月4日)

しかし、その仮「提言案」はまだ不十分であったため、60件ほどの意見書が届いた。そこで、有識者の指導のもとに「提言案」を作り直し、今回のシノドス第1会期に提出したのが「カトリック教報」5月号にも掲載した「提言案」である。

## 2. シノドス第1会期

### (1) シノドス議員の心構え

教会法に則って選出されたシノドス議員は、長崎教区の刷新のために、教区の信者が何を望んでいるのかを自分なりに考えをまとめてシノドスに臨む必要がある。そのため、シノドスに関するこれまでのすべての資料に目を通し、準備する必要がある。単に第1会期に提出された「提言案」を見るだけの議員には、「提言案」作成の経過が分からず、やぶから棒に「提言案」が提出されたかのように思えたであろう。

さらに「提言案」がシノドスの約1カ月前には議員に配布されたのは、シノドスではつきりと自分の意見を述べてもらうためであった。そのために案内文が添付されており、その中で「提言案」に対する意見書を前もって提出してくれるこ

とや、具体的な文言が必要ならば、その具体案をはっきりと書いてくることや、シノドス中央委員会が「提言案」として提出した文章が不十分であれば、自分で書き直した「提言案」を文章化して持ち込んで来ていただけるようお願いしていた。シノドス議員にはこうした準備を整えてシノドスに臨んでもらったのである。

### (2) シノドスの進め方

前に記したように、教区一丸となって教区を刷新するために信者の意見を汲み取ることがこのシノドスの役割である。他のシノドスでは、前もって具体的なテーマを決めている。たとえば、今年開かれる臨時の司教シノドスでは「家庭」がテーマとなっている。しかし、長崎教区のシノドスのテーマは具体的なものはなく、教区刷新のために「何を」もって教区を刷新していくのかを目指していることから、その目指していることのために「何を」をまず探さなければならない。そのために信者から提出された意見や仮「提言案」を基に、中央委員会が教区刷新のために、信者が考えている「何を」もって、をなんとか12の「提言案」にまとめたものを審議の対象としたのであった。

### (3) 採択の結果

シノドス議員による各提言に対する採択の結果は以下の通りである。しかし、この回答の結果はまだ途中段階に過ぎない。そのために各議員がどのように考えているのかの目安にしたい。ここでは、各議員の意見を掲載することはないが、それぞれの回答には、はっきりと賛否に対する理由が書かれていることだけをお知らせしておく。しかし、議員には前もってすべての資料を配布しておいた上で、それを読むことによって、議員各自の考えを知ることができる。この回答と添付された意見を基に、次の第2会期から審議に入る。

- 条件付きで賛成、反対(理由を必ず書くことが条件)に分けて尋ねたものであり、それぞれの賛否の回答に対して理由を求めた。とくに、条件付きや反対意見の方には、その理由をはっきりと述べてもらうために、文章全体の修正や具体的な事柄が必要であれば、また削除する「提言案」があればその具体内容を詳しく書いてくれるよう求めた。採択資料の回答からいくらか各議員の考えが見えてきたのを受けて、中央委員会は各議員の意見をまとめたものをあらためて議員各自に送付したが、それと同時に中央委員会も「提言案」を修正し第2会期に備えた。それは、各議員にみんなの考えを知った上で、第2会期に臨んでもらうためであり、ここでは本格的な討議ができるものと期待していることであった。
- 提言③** 新しい信仰教育のあり方
- 提言②** 家庭の福音化
- 賛成 38%
  - 条件付き賛成 38%
  - 反対 1・7%
- 提言①** 司祭の霊的刷新と生涯養成
- 賛成 36%
  - 条件付き賛成 40%
  - 反対 1・7%



第1会期での会議の様子(5月5日)

- 提言④** 専門的なカテキスタの養成
- 賛成 57%
  - 条件付き賛成 21%
  - 反対 0%

- 提言⑤** 司祭・修道者の召命の促進
- 賛成 41%
  - 条件付き賛成 34%
  - 反対 1・7%

- 提言⑥** 長崎教区の現状に合った新しい司牧の形態への移行
- 賛成 40%
  - 条件付き賛成 33%
  - 反対 5・2%

- 提言⑦** 修道会との連携
- 賛成 41%
  - 条件付き賛成 29%
  - 反対 6・9%

- 提言⑧** カトリック学校の使命と教区の協力
- 賛成 47%
  - 条件付き賛成 26%
  - 反対 3・4%

- 提言⑨** カクレキシタンとの相互交流
- 賛成 34%
  - 条件付き賛成 16%
  - 反対 26%

- 提言⑩** 教会を離れている信徒への配慮
- 賛成 36%
  - 条件付き賛成 34%
  - 反対 3・4%

- 提案⑪** 人間の「いのち」への奉仕
- 賛成 47%
  - 条件付き賛成 29%
  - 反対 0%

- 提言⑫** 教区会計の見直し
- 賛成 41%
  - 条件付き賛成 31%
  - 反対 3・4%

### (4) 今後の予定

7月の第2会期を経て、審議した「提言案」への意見の集約を行い、あらためて「提言案」に修正が必要であれば、有識者の協力を得て作成し直す。次に9月の第3会期において修正した提言案を再度審議した後、最終的に11月の第4会期で最終採決を行う。最終採決に際しては、「条件付きの賛成」項目は省き、「賛成」か「反対」かのいずれかで問うことになる。そして、シノドス議員の70パーセント以上の賛成を得たものを正式な「提言案」として大司教に提出する予定である。この場合、採択基準を超えなかった「提言案」は削除されることになるし、採択された「提言案」の修正は行わない。大司教はその「提言案」を受けて、正式に承認し「提言」として教区の全信者に公表する。今のところ、大司教様が「提言案」を「提言」として承認・署名する予定は2015年2月19日(天浦天主堂献堂150周年記念日)で、公表日は2015年3月17日信徒発見150周年記念ミサの中で行う予定である。

教区シノドス中央委員会

## 短 信

〈第5回如己愛人賞授賞式・韓国如己の会〉  
●韓国如己の会(総裁李文熙大司教)は6月15日、大邱市のイエズス聖心侍女会本部で「第5回如己愛人賞」授賞式を行った。同賞は、永井隆博士の如己愛人精神を伝えるために博士に関する図書を指定し、中高生を対象に実施している読書感想文コンクール。高校の部は金志恩さん(高一)、中学の部は蔣孝妹さん(中3)が最優秀賞を受賞した。

〈2014年度定例司教総会〉

●6月16・19日、定例司教総会が日本カトリック会館(東京)で開かれ、全国16教区から17人の司教と、男女修道会の代表らが出席した。主な審議事項としては、「公式祈願」の一部と「叙階の祈り」の旋律について話し合われた。また、「司牧の手引き」編集特別委員会で作成中の、司祭が用いる『司牧に関する法規の手引き』について検討され、修正意見が加味された上で承認。さらに2013年度の決算、および列聖列福特別委員会が常設委員会に変更され、「列聖推進委員会」(英語名はCommittee for Promoting Canonization)と改称されることとが承認された。

## 新刊良書

★愛と喜びと一致  
カンガス神父のメッセージA年  
編IIイエズス会霊性センターせせらぎ

「イエスのみ言葉と、福音的なすばらしい人生を歩んだ人々の生き方に触れて、あなたも真の幸せに導かれますように」(『まえがき』から)。聖母の騎士社、税別1600円。

★教会法で知るカトリック・ライフQ&A40  
著II菅原裕二

信仰生活に深く関わりながら一般にはなじみの薄い教会法を、Q&A形式で分かりやすく説明している。著者はイエズス会司祭。ドン・ボスコ社、税別700円。

★信条(クレド)―教皇講話集

訳者IIカトリック中央協議会  
司教協議会秘書室研究企画  
信仰年の開年とともにベネディクト16世によって始められ、フランシスコに引き継がれ完結した信条に関する一般謁見連続講話集。中央協議会、税別900円。



信徒発見150周年と高山右近列福に向けて  
これだけのことは知ってほしい⑥

# 赦しの上に建てられる教会

鹿児島教区司祭 竹山 昭

## 赦しを通して建てられる教会

ずいぶん前になるが、長崎は西坂の黙想の家で、結城神父様の指導で鹿児島教区司祭たちが黙想会をもった。ある講話の中で結城師がこう言われた。

「イエスは教会を建てるのに、根本的に、赦しを通して教会を建てる」

驚いた。むしろ一種のショックを受けたというほうが近い。むろんわたしも「赦し」の大切さは十分に考えていたつもりだが、それでも教会が建つか崩れるかの要に「赦し」ということがあると考えたことはなかった。以来、繰り返しそのことを確かめてみようとするほかなかった。その振り返りはいまだに終わらない。

2、3の点だけを述べておきたい。  
イエスの使命が御父からの赦しを告げることにあり、自らも罪の赦しを宣言し、人びとのために御父の赦しを祈られたことは福音書が語るとおりである。ここでは詳しい説明の必要はあるまい。

弟子たちはイエスの使命を受け継ぎ、教会の礎となるべき人びとであった。その要となるはずのペトロは、結城師によれば最初の転びバテレンである。そればかりではない。他の弟子たちも皆イエスを見捨てて逃げ去った。教会の礎となった人びとはすべて「転びバテレン」である。

ユダはイエスを裏切った。しかし他の11人もイエスを裏切った。だがユダと他の弟子たちのその後はまったく異なる。ユダが自分の罪を認めず、他の弟子たちは認めたからではない。ユダは心底自分のしたこととを後悔している。自分の罪を認めたからこそ、その大きさに打ちのめされて絶望し、自殺した。

弟子たちは？ 彼らがどのように立ち直ったのか、福音書は明言しないので詳しくは分からない。ただ、弟子たち皆の裏切りを予告するイエスの言葉の中に、「しかしわたしは復活した後、あなたがたより先にガリラヤに行く」とある。「先に行く」とは、「後から来なさい」ないし「先に行つて待っているからね」という意味合いを含む。弟子たちはそのメッセージに気付いた

ときに、自分自身の何かではなく、この言葉が示すイエスの赦しに立とうとした、そう考えるしかあるまい。

では、わたしたちの場合はどうなのか。人がキリスト者とされるのは洗礼の秘跡を受けることによる。洗礼の秘跡の固有の恵みは「罪の全面的な赦し」にある。

「イエスは、根本的に、赦しを通して教会を建てる」ということは、文字通りほんとうなのだと言わざるを得ない。

## 迫害下の信仰を支えた「コンチリサンのオラシヨ」

先述の黙想会で「コンチリサンの略」という本が見いだされる地方では信仰が生き生きとしている、というキリシタン時代の実例も興味深く聴いた。この本は1603年当時の日本司教ルイス・セルケイラの編著によって長崎で出版されたが、現在では写本だけが残っている。「コンチリサン」つまり「真実の痛悔」が大切なことを懇々とさとし、「コンチリサンのオラシヨ」「悔い改めの祈りを収めている。

徳川幕府による組織的で継続的なキリシタン検索制度と苛酷な取り調べは7世代、およそ250年の間潜伏したキリシタンたちを苦しめ続けた。

一例を挙げれば、長崎で始まったといわれている「絵踏」という検索制度は、寺請制度と相まって、赤ん坊からお年寄りまで誰一人逃れることはできない。踏むしか仕方なく、家に帰ってから、ひそかに「コンチリサンのオラシヨ」を唱えて、必死に神の赦しを願ったのだ。キリシタンの心情ではそれは信仰に背く行いであるとすれば、彼らがどのようなところを抱いて踏み絵を踏み、どのよ

うな痛みとともにこのオラシヨを呟いていたのだろうか。

殉教者が信仰の強さ、素晴らしさを語っているとすれば、絵踏みという形で表面上であれ信仰否定の形を生き、コンチリサンのオラシヨを唱え続けた人びとは、人間の弱さと哀しさとともに、何よりも神の慈しみと哀れみを語っている。そしてその慈しみを信じたこの人びとの信仰を――。彼らを通して迫害下の時代にも信仰が守られ、伝えられていまの日本の教会につながっているとするれば、長崎の、ひいては日本の教会もまた神の赦しの上に、それを信じる信仰の上に建てられているのである。

彼らには司祭がなく、したがって洗礼以外の秘跡はなかった。わたしたちにはコンチリサンのオラシヨにもまして赦しの秘跡がある。それとも迫害のないわたしたちには、もはやキリシタンたちにとつてのコンチリサンのオラシヨほどには意味がないのだろうか。

## おずおずとで結構

赦しの秘跡についてはその共同体的な性格(教会との和解)ほか、確かめるべきことがいくつもある。しかしここでは2つの点だけに触れておきたい。  
「ともかく赦しの秘跡にはなんとなく近づきにくい」と耳にする。それはある意味で当然のことだ。罪は元来矛盾に満ちたものである。したがって理解しがたいものである。

そんなことをしてかした自分は神にも人にもやはり恥ずかしい。そんな自分が赦しの対象である。なんとなく近づきにくいと感じるのは、人間の自然の感情であろう。堂々と、すっきりした気持ちで近づけると考えるのが、むしろおかしい。「おずおずと、やつとかつとで」当然だし、それで結構なのだ。

それだけに、自分の罪だけを眺めていたら、誠実であればあるほど二の足を踏むにちがいない。このようなわたしたちを清めてでも受け入れたいという切なる神の慈しみに、しつかりと目を留めておのれを託す。それはいわば「呻きの中からの、神の慈しみへの信仰告白」という以外に言葉を知らない。

## 赦しは罪人の「わたしに」

もうひとつは「罪を赦される」という言い方が使われるために、知らず知らずのうちに誤解が生じているのではないかという懸念である。

例えば糾明をしたのにいざ告白してみると何か言い足りない、少しちがうという心配を味わったことがあるかもしれない。それは、罪がすでに述べたように矛盾にみちていることによるが、さらに、赦されるのはあの罪この罪という個々の罪であるというよりも、正しくは、あの罪この罪をおかした「わたし」が赦されるのだということを

しつかり把握していないからかもしれないと思う。

もし赦されるのが個々の、いわばわたしから区別できるある行為や現実だというのなら、詳細かつ正確に述べなければならぬ。しかし赦されるのは、あれこれの罪をおかした「罪人であるわたし」なのである。

赦しの秘跡が「秘跡」であり教会の奉仕者としての聴罪司祭を介するため、たしかに罪をある程度言い表さなければならぬ。ことに大罪だとはっきり自覚している罪についてはそう命じられている。しかし赦しを求めて差し出すのは、そうした罪をいわば窓口としての「罪人のわたし自身」である。全部言い表して自分がすっきりするために告白するわけではないのだから、赦しを求めているわたし自身を差し出すだけの罪の告白で十分である。

したがって、大罪だと自覚している罪を除けば、糾明したことの中から、通常はひとつかふたつだけで十分である。それを通して、悔い改め赦しを求めている自分自身は十分に差し出すことができる。

赦しの秘跡においては、詩編の言葉をかりれば、「砕かれたところ」を、教会共同体の奉仕者(聴罪司祭)を介して慈しみ深い神に差し出すのであつて、あれこれの罪を並べ立てるわけではないのだから……。

## 14年度教区司祭黙想会

毎年6月に行われる教区司祭黙想会。今年は2つの黙想会が組まれ、司祭はそれぞれ、都合のよい日程に合わせて参加した。

長崎黙想の家 1回目の黙想会は6月9日から12日にかけて、長崎黙想の家(イエズス会長崎立山修道院)を会場に行われた。講師は、淳心会司祭でオリエンタル宗教研究所所長のムケンゲシャイ・マタタ師。マタタ師は福音書にあるイエスの招きを手がかりに、世界と日本の教会を分析しながら、新しい福音宣教に向



ての刷新を説いた。イエスの招きの特徴は、見て、聞いて、識別すること。イエスは弟子たちを呼ぶ前に、彼らのもとに足を運び、よく知ろうとした。弟子たちも同じように、人々に福音を説くにあたり、その生活や状況をつぶさに見、彼らに耳を傾けたという。人々を招くためには、最後に、謙虚に福音のメッセージと人々の声に耳を傾け、意思と意向と情熱をもって、福音宣教に突き進むよう励ました。

長崎大司教館 2回目の黙想会はフランシスコ会のは、私たちもその姿に倣うことが必要だと論じた。マタタ師によれば、世界的視野から見ると日本の福音宣教は行き詰まっておらず、むしろ世界をリードする可能性を秘めているという。小教区主義・司祭万能主義といった内向きの課題はあるが、日本の社会はフランス・ザビエルの時代と同様、福音的な価値観を分かち合うことができる。



最後に、神学者ラインホルド・ニーバーの祈りで司祭たちと祈りの時間を持った。「主よ、変えられないものを受け入れる心の静けさと、変えられるものを変える勇気を我に与え給え。」司祭にとつて変えられない、譲れないものは召命の核心なのだから、大切にしてほしいと語り掛けて黙想会を結んだ。

『典礼憲章』発布 50 周年記念講演会  
典礼刷新 - これまでとこれから -  
日 時 9月23日(火・祝)  
10時～15時30分(9時から受付)  
場 所 カトリック浦上教会聖堂  
講演者 F・ソットコルノラ(聖ザベリオ宣教会司祭)  
市瀬英昭(神言修道会司祭)  
石井祥裕(上智大学非常勤講師)  
参加費 1000円  
申込先 長崎教区内の方は天神教会〔平本〕まで  
☎ 0956-31-4705  
主催 日本カトリック典礼委員会  
協力 カトリック長崎教区典礼委員会

白蟻調査無料・駆除予防工事5ヶ年保証付  
白蟻防除施工士  
**大田白蟻研究所**  
代表者 マリア 大島 睦子  
(〒850-0811) 長崎市矢の平1丁目14番15号  
☎ 長崎 095-822-8436  
FAX 095-822-8488

主の平安  
カトリック式葬祭・飾付一式  
(有) **栄光式典社**  
代表取締役 ヨハネ 西村 勇二  
長崎市辻町7-18 TEL(095)844-4011  
24時間営業 FAX(095)843-9896

ユウ メイ  
有明ホテル  
雲仙の旅館やさしいおもてなし  
殉教者の誓いの地  
島原半島の巡礼ご宿泊に  
どうぞご利用くださいませ。  
お問い合わせ ☎ Tel 0957-73-3206  
ご予約は ☎ Fax 0957-73-2254  
E-mail info@yumei-hotel.co.jp  
URL http://www.yumei-hotel.co.jp  
社長 アントニオ 栗原盾夫  
女将 ルチア 栗原トシエ

ご先祖に心より感謝を・・・  
**材石 治明**  
長崎本店 長崎市城栄町13-1 電話 (095) 846-3598  
大村店 大村市民霊園内 電話 (0957) 50-3008



2013 年度決算に関する報告

長崎大司教区

長崎大司教区

〔収入の部〕

| 科 目               | 決算額         |
|-------------------|-------------|
| 1. 経常収入の部         | 464,994,447 |
| 教区費               | 129,289,500 |
| 信 徒               | 117,214,500 |
| 司 祭               | 8,675,000   |
| 修道会               | 3,400,000   |
| 特定献金              | 33,476,920  |
| 神学生養成援助費（封筒）      | 12,002,407  |
| 世界広報の日献金          | 2,506,264   |
| 聖ペトロ使徒座への献金       | 6,737,836   |
| 世界難民移住移動者の日献金     | 2,425,199   |
| 世界宣教の日献金          | 2,410,553   |
| 宣教地司祭育成の日献金       | 2,537,035   |
| 児童福祉の日献金          | 4,857,626   |
| 特別献金              | 28,185,158  |
| 寄付金               | 10,181,307  |
| 献金収入（本部関係）        | 15,739,619  |
| ミサ奉納金(ピナチオ・トリナチオ) | 1,824,000   |
| ミサ献金（教区行事）        | 440,232     |
| 諸委員会活動費           | 5,012,069   |
| (1) 信仰養成部         | 2,795,015   |
| 信仰教育委員会           | 357,596     |
| 生涯養成委員会           | 2,308,419   |
| 青少年委員会            | 0           |
| 典礼委員会             | 129,000     |
| 信仰養成部費            | 0           |
| (2) 福音化推進部        | 340,000     |
| エキュメニズム・諸宗教委員会    | 70,000      |
| 人権委員会             | 30,000      |
| 福祉委員会             | 0           |
| 平和推進委員会           | 240,000     |
| 福音化推進部費           | 0           |
| (3) 教会奉仕者等養成部     | 0           |
| 召命促進委員会           | 0           |
| 神学生養成委員会          | 0           |
| (4) 家庭特別委員会       | 208,000     |
| (5) 広報委員会         | 1,362,970   |
| (6) 教区本部事務局       | 306,084     |
| その他               | 269,030,800 |
| 保険金収入             | 1,000,000   |
| 受取利息              | 2,030       |
| 雑収入               | 12,959,304  |
| 小教区拠出金            | 247,860,413 |
| 非課税事業収入           | 7,209,053   |
| 2. 財務収入の部         | 120,007,491 |
| 固定資産収入            | 0           |
| 受取家賃              | 0           |
| その他の財務収入          | 120,007,491 |
| 内部貸付金回収           | 0           |
| 国宝保存財務資金          | 120,000,000 |
| 資金取崩収入            | 0           |
| 雑収入               | 0           |
| その他収入             | 7,491       |
| 立替金返済収入           | 0           |
| 3. 前年度繰越金         | 119,958,082 |
| 収入の部合計            | 704,960,020 |

〔支出の部〕

| 科 目       | 決算額         |
|-----------|-------------|
| 1. 経常支出の部 | 547,411,762 |
| 宗教活動費     | 12,902,075  |
| 祭儀費       | 5,192,624   |

| 科 目            | 決算額         |
|----------------|-------------|
| 特別行事           | 3,561,051   |
| 助成金（小教区）       | 1,830,141   |
| 教区評議会          | 2,318,259   |
| 諸委員会活動費        | 18,862,834  |
| (1) 信仰養成部      | 6,287,806   |
| 信仰教育委員会        | 1,124,136   |
| 生涯養成委員会        | 3,698,200   |
| 青少年委員会         | 1,097,981   |
| 典礼委員会          | 356,704     |
| 信仰養成部費         | 10,785      |
| (2) 福音化推進部     | 3,900,855   |
| エキュメニズム・諸宗教委員会 | 668,098     |
| 人権委員会          | 1,028,151   |
| 福祉委員会          | 101,074     |
| 平和推進委員会        | 2,094,258   |
| 福音化推進部費        | 9,274       |
| (3) 教会奉仕者等養成部  | 1,056,144   |
| 召命促進委員会        | 953,484     |
| 神学生養成委員会       | 102,660     |
| 教会奉仕者養成委員会     | 0           |
| 教会奉仕者等養成部費     | 0           |
| (4) 家庭特別委員会    | 1,304,988   |
| 家庭特別委員会        | 1,221,988   |
| 小共同体推進室        | 83,000      |
| (5) 広報委員会      | 6,313,041   |
| 負担金            | 23,748,817  |
| 中央協議会送金        | 15,996,774  |
| 使徒座送金          | 7,152,043   |
| 心のともしび         | 600,000     |
| 神学生養成費         | 59,395,722  |
| 日本カトリック神学院     | 24,019,474  |
| 大神学生諸経費        | 516,248     |
| 長崎カトリック神学院     | 15,000,000  |
| 長崎コレジオ         | 3,000,000   |
| 福岡コレジオ         | 16,300,000  |
| 助祭生活費          | 560,000     |
| 司祭生涯養成費        | 8,036,690   |
| 黙想研修会          | 1,227,187   |
| 海外留学費          | 6,809,503   |
| 不動産管理費         | 760,951     |
| 管理費            | 24,450      |
| 租税公課           | 736,501     |
| 人件費            | 331,015,408 |
| 聖職者（本部関係）      | 28,442,000  |
| 聖職者（小教区）       | 187,090,000 |
| 引退司祭           | 7,410,000   |
| 職員（本部関係）       | 50,598,694  |
| 職員（小教区）        | 57,474,714  |
| 福利厚生費          | 41,923,509  |
| 法定福利費（司祭・本部）   | 32,663,346  |
| 法定福利費（小教区）     | 3,570,725   |
| 福利厚生           | 0           |
| 医療費            | 2,651,288   |
| 医療共済制度         | 1,423,750   |
| 年金（掛け金）        | 1,614,400   |
| 維持管理費          | 21,703,757  |
| 大司教館           | 12,310,420  |
| センター（管理部門）     | 9,393,337   |
| 事務費            | 18,709,990  |
| 本部事務局          | 4,732,316   |
| 教区管理費          | 13,425,305  |
| 法人事務所          | 552,369     |
| その他の支出         | 10,352,009  |

| 科 目         | 決算額         |
|-------------|-------------|
| 巡礼センター業務委託料 | 600,000     |
| 非課税事業支出     | 9,752,009   |
| 雑費          | 0           |
| 予備費         | 0           |
| 2. 財務支出の部   | 66,125,106  |
| 財務支出        | 625,106     |
| 補助金         | 0           |
| 利子支払（借入金）   | 625,106     |
| 積立金支出       | 65,500,000  |
| 司教活動資金      | 3,000,000   |
| 不動産取得資金     | 60,000,000  |
| その他支出       | 0           |
| 司祭年金        | 0           |
| 退職給与引当金支出   | 2,500,000   |
| 3. 次年度繰越金   | 91,423,152  |
| 支出の部合計      | 704,960,020 |

カトリックセンター事業部門

〔収入の部〕

| 科 目    | 決算額        |
|--------|------------|
| 宿泊売上   | 37,151,535 |
| 会議室売上  | 2,627,738  |
| カフェ売上  | 9,334,120  |
| 売店売上   | 290,152    |
| 営業雑収入  | 643,507    |
| 雑収入    | 132,908    |
| 受取利息   | 1,011      |
| 預り金収入  | 1,178,141  |
| その他の収入 | 3,874,160  |
| 前年度繰越金 | 5,882,698  |
| 収入の部合計 | 61,115,970 |

〔支出の部〕

| 科 目      | 決算額        |
|----------|------------|
| 給料および手当  | 15,654,582 |
| 法定福利費    | 791,851    |
| 退職引当預金支出 | 325,000    |
| 福利厚生費    | 364,187    |
| 食材仕入     | 3,939,106  |
| 売店仕入     | 658,037    |
| 消耗品費     | 4,098,878  |
| 通信費      | 424,728    |
| 旅費交通費    | 138,800    |
| 水道光熱費    | 2,895,604  |
| 接待交際費    | 9,379      |
| 諸会費      | 133,000    |
| 車輛費      | 732,638    |
| 修繕費      | 544,719    |
| 燃料費      | 2,449,552  |
| 保険料      | 462,820    |
| 保健衛生費    | 1,073,963  |
| 公租公課     | 3,431,274  |
| リース料     | 54,096     |
| 広告宣伝費    | 78,440     |
| 支払手数料    | 1,529,340  |
| 雑費       | 1,603,913  |
| 寄付金      | 350,000    |
| 預り金支出    | 1,205,522  |
| その他の支出   | 3,904,160  |
| 内部借入金返済  | 3,000,000  |
| 次年度繰越金   | 11,262,381 |
| 支出の部合計   | 61,115,970 |



2013 年度決算に関する報告 長崎教区 71 小教区決算集計表

〔収入の部〕

| 科 目            | 決算額           |
|----------------|---------------|
| 1. 経常収入の部      | 1,090,274,746 |
| 献金収入           | 788,573,523   |
| 教会維持費          | 410,362,898   |
| ミサ献金           | 116,815,672   |
| ミサ奉納金          | 186,487,360   |
| 祭儀献金           | 51,201,990    |
| その他の献金         | 23,705,603    |
| 寄付金収入          | 59,004,887    |
| 一般寄付金          | 23,637,389    |
| 指定寄付金          | 4,112,760     |
| 司祭寄付金          | 17,742,697    |
| 修道会寄付金         | 762,755       |
| その他の寄付金        | 12,749,286    |
| その他の収入         | 74,537,866    |
| 教区補助金収入        | 6,205,775     |
| 受取利息収入         | 339,938       |
| 墓地納骨堂管理費収入     | 14,166,207    |
| 行事収入           | 4,269,215     |
| 非課税事業収入        | 2,806,101     |
| 雑収入            | 46,750,630    |
| 預り金収入          | 168,158,470   |
| 教区費            | 117,216,962   |
| 神学生養成援助費（封筒）   | 10,952,948    |
| 児童福祉の日献金       | 2,620,240     |
| 世界広報の日献金       | 2,424,496     |
| 聖ペトロ使徒座への献金    | 2,512,761     |
| 世界難民移住移動者の日献金  | 2,380,174     |
| 世界宣教の日献金       | 2,321,579     |
| 宣教地司祭育成の日献金    | 2,320,470     |
| 特別献金           | 1,975,515     |
| 預り金            | 2,925,414     |
| 一葉募金           | 6,174,483     |
| クリスマス募金        | 4,577,019     |
| カリタスジャパン募金     | 7,040,936     |
| その他の募金         | 2,715,473     |
| 2. 財務収入の部      | 437,930,856   |
| 内部借入金収入        | 68,859,075    |
| 外部借入金収入        | 0             |
| 特別目的預金取崩収入     | 45,342,491    |
| 境内地拡張費積立金収入    | 0             |
| 境内建物建設増改築積立金収入 | 93,110,471    |
| 土地売却代金収入       | 0             |
| 修理費積立金収入       | 98,162,855    |

| 科 目         | 決算額           |
|-------------|---------------|
| 雑収入         | 43,695,430    |
| 重文防災施設工事補助金 | 0             |
| 教会建設積立繰越金受入 | 55,072,036    |
| 教会建設献金受入    | 4,755,670     |
| 教会建設寄付金受入   | 28,932,828    |
| 3. 前年度繰越金   | 605,161,009   |
| 収入の部合計      | 2,133,366,611 |

〔支出の部〕

| 科 目       | 決算額         |
|-----------|-------------|
| 1. 経常支出の部 | 991,328,353 |
| 小計 I      | 817,764,068 |
| 祭儀費       | 44,575,623  |
| 教化費       | 18,847,807  |
| 教育養成費     | 30,206,504  |
| 図書費       | 6,701,475   |
| 出版刊行費     | 11,290,919  |
| 行事費       | 37,540,313  |
| 負担金       | 21,963,001  |
| 維持管理費     | 38,040,681  |
| 備品修繕費     | 19,640,846  |
| 保守管理費     | 13,798,688  |
| 墓地管理費     | 10,344,954  |
| 保険料       | 29,155,050  |
| 給与手当      | 236,699,096 |
| 雑給与       | 24,414,976  |
| 退職金       | 1,035,525   |
| 福利厚生費     | 10,746,240  |
| 法定福利費     | 4,191,471   |
| 会議費       | 3,683,667   |
| 消耗品費      | 17,274,066  |
| 器具備品費     | 8,676,753   |
| リース料      | 13,228,229  |
| 通信費       | 13,062,823  |
| 旅費交通費     | 12,898,420  |
| 自動車諸費     | 21,403,554  |

| 科 目           | 決算額           |
|---------------|---------------|
| 水道光熱費         | 77,777,138    |
| 接待交際費         | 19,989,962    |
| 公租公課          | 736,045       |
| 支払利息          | 0             |
| 補助金支出         | 32,669,017    |
| 支払手数料         | 152,689       |
| 非課税事業支出       | 2,783,912     |
| 雑費            | 25,669,624    |
| 司祭活動費補助       | 8,565,000     |
| 小計 II（預り金支出）  | 173,564,285   |
| 教区費           | 116,178,810   |
| 神学生養成援助費（封筒）  | 10,959,457    |
| 児童福祉の日献金      | 2,631,291     |
| 世界広報の日献金      | 2,443,554     |
| 聖ペトロ使徒座への献金   | 2,514,106     |
| 世界難民移住移動者の日献金 | 2,377,290     |
| 世界宣教の日献金      | 2,333,732     |
| 宣教地司祭育成の日献金   | 2,323,382     |
| 特別献金          | 5,893,234     |
| 預り金           | 3,170,013     |
| 一葉募金          | 6,165,554     |
| クリスマス募金       | 4,796,607     |
| カリタスジャパン募金    | 6,984,408     |
| その他の募金        | 4,792,847     |
| 2. 財務支出の部     | 381,101,346   |
| 内部借入金返済支出     | 32,520,000    |
| 外部借入金返済支出     | 1,150,000     |
| 土地取得支出        | 0             |
| 建物取得支出        | 153,023,394   |
| 構築物購入支出       | 34,860,284    |
| 器具備品購入支出      | 34,893,056    |
| 特別目的預金積立支出    | 119,188,023   |
| 退職積立金         | 4,967,034     |
| 教会修理費         | 499,555       |
| 3. 次年度繰越金     | 760,936,912   |
| 支出の部合計        | 2,133,366,611 |

|                  | 2012 年度 | 2013 年度 |
|------------------|---------|---------|
| 世帯数              | 18,146  | 18,098  |
| ①維持費 / 世帯数 / 月   | 1,952   | 1,890   |
| ②教区費 / 世帯数 / 月   | 546     | 540     |
| ③教区費 / 維持費（％）    | 28      | 29      |
| ④ミサ奉納金 / 世帯数 / 月 | 822     | 859     |
| ⑤ミサ献金 / 世帯数 / 月  | 552     | 538     |

2014 年 四旬節愛の献金

総額 5, 2 4 1, 5 2 9 円 (7/7 現在)

上記献金の他、直接カリタスジャパンへご送金  
いただいている分もあります。皆さまのご支援、  
ご協力に心から感謝申し上げます。

カリタスジャパン長崎支部

『日本の信徒発見』150周年に向け、長崎中地区は5月25日カトリックセンターで研修会を開催。300人以上の参加者が、約2時間にわたる古巣馨師（大司教館）の講演に熱心に聴き入った。テーマは「ワタシノムネアナタノムネトオナジ」長崎の教会がいまもオナジを告白するために。」。

古巣師は、イエスが死と復活によって御父と御子の密接な「オナジ」（ヨハネ12・44、45参照）を示し、この救いの出来事を記念しなさいと命じられたことについて触れた。「救いの出来事を記念するたびに教会は自分を知り、育て、行くべき方向を確認してきた。その記念の原点に、オナジ」というイエスと御父との関係が礎としてある。そこにあずかることが記念の目的である。プチジャン神父に告げた潜伏キリシタンたちの『ワレラノムネアナタノムネトオナジ』は、私たちもずっと御父と御子の「オナジ」にあずかってきましたという信仰告白だった。そして、互いに「オナジ」の確認作業に入った」

さらに、来年の150周年は長崎の教会が受け渡してきた「オナジ」を今また告白する記念の時

教区広報委員会からのお知らせ  
『カトリック教報』は現在、教会や一部を除く修道院、関係施設などにお届けしております。  
部数・送付先の変更がありましたら、広報委員会（Tel 095・843・3869）までお知らせください。よろしく願います。



5月25日、愛野小教区（主任プリ・ヤン師）で高見三明大司教司式のもと堅信式が行われ、合わせて教会共同墓地の祝福と納骨式もあった。

愛野小教区で堅信式  
（高校生2、大人1）は、教会共同体に見守られながら堅信の秘跡にあずかった。高見大司教の同小教区への訪問は今回が初めてということもあり、喜びと緊張はいつそう膨らみ、また皆でいただく昼食はアットホームな雰囲気の中、シスターの余興などで大いに盛り上がった。

出し、②一番良いものを神と人にささげ、③熱心に祈り、学び、分け合う長崎の教会の本来の姿を取り戻し、皆で『オナジです』と心から告白することができれば」と語った。

最後に、「信仰を支えに生きた人の葬式に立ち会ったとき、ミサのあずかり方も、祈りも知らない子どもたちや孫たちがおりおろしている姿を目の当たりにする。私たちの時代に、伝えることを完全に失敗したと素直に認めなければならぬ。キリストを知らない人に福音を伝えることはもちろん大事だが、『人の子に、同テーマで開催。



長崎中地区研修会  
御父と御子の「オナジ」にあずかる

は、失われたものを捜して救うために来た」（ルカ19・10）という福音を長崎の教会はどのように生きるべきだろうか」149年前、3人から再開された神学生養成、今年教区の小神学生入学者は1人。この現実をどう捉えたらよいのか」と問い掛け、講演を終了した。

参加者は、「祈ることの大切さをあらためて感じた。私も「オナジ」を告白したい」「祈りが少ないのは確か。自分の聖性を高め、祈る意識を呼び覚ますような企画を今後も開いてほしい」と話した。次回の研修会は10月26日。古巣師を講師に迎え、列福が待ち望まれるユスト高山石近を中心



# 新聖堂の献堂と祝福々

## 上神崎教会献堂式

上神崎小教区(主任 橋本 勲師)で6月1日、高見三明大司教司式による献堂式が挙行された。教会堂名は「日本の信徒発見の聖母」。



旧聖堂は1969年に建立されたが、度重なる雨漏り対策に追われ、今回の新聖堂建設となった。双塔の赤い屋根を一新、正六角形を基調とした、他に類を見ないユニークな聖堂となっている。この構造はミツパチの果(ハニカム)を連想させることから、ハニカム構造と呼ばれる。献堂式で配られたパンフレットには、この新聖堂について「週の初め、すなわち主日の復活のめぐみと力が、この聖堂いっぱい

にあふれ、つづく六日間へと流れて、周辺一帯に神の聖なるハニカム構造が形作られることになれば」という思いが、主任司祭の言葉でつづられている。

高見大司教は説教の中で、「教会とはそもそも建物ではなく、キリストを信じ、宣べ伝える人々の集まり、共同体のことです。新しい聖堂の献堂を機に、福音宣教する共

同体を目指す して新たな歩みが始まることを祈ります」と語った。

境内の一角には歴史庭園も設けられた。先達の未来に託した思いを受け止め、私たちが今をどう生きるのか、未来に何を託すのかについて思いをいたす場所となっている。

## 佐々教会祝福式

4月27日に設立された佐々小教区において5月31日、高見三明大司教司式のもと佐々教会(北松浦郡佐々町田免1-1)の祝福式が執り行われた。教会堂名は「聖家族」。式には500人以上の信者や関係者が集い、感謝の祈りをささげた。



初代主任司祭の小瀬良明師は、「教会が果たす使命として、障害者支援や悩みを抱えた人・高齢者などの相談を受け付

## 教区顧問会

2013年度決算を承認

教区顧問会が6月23日、大司教館で開催された。まず、人事異動に伴い退任された前事務局長の小瀬良明師に代わり、教区会計の岩本繁幸師の宗教法人の責任役員就任が承認された。引き続き2013年度収支決算書案が審議され、同決算書として承認された(本紙5-6面参照)。

続いて、太田尾教会が駐車場としての取得を進めている土地の購入が承認された。なお、閉鎖が予定されている大阪聖ヨゼフ宣教師道女会黒崎修道院と聖母訪問会時津修道院の土地・建物については、前者は教区・小教区での活用を検討し、後者は住宅地に隣接していることから活用は難しいとの結論に至った。

また、国宝大浦天主堂を御手に委ね奉る。イエズス、マリア、ヨゼフ、臨終のまだえの時に、われを助け給え。イエズス、マリア、ヨゼフ、御保護のもとに、安らかに息絶ゆるを得しめ給え……」

## 再び家庭を振り返る ⑬

教区家庭特別委員会 岩崎 康彦

家庭にイエズス、マリアを

病人周りに行くと、多くの家には家庭祭壇があります。十字架があり、マリア様のご像があり……。ロウソクを灯し、家庭祭壇の中心にご聖体の入った器を置いて、これで建物ではない祈りの家・小聖堂が完成。「父と子と聖霊のみ名によって、アーメン」司祭は病人と共に祈りを始めます。

今では独居暮らしとなつてはいても、かつては、そこに家族が集まり、祈りがささげられていたのでしょうか。そして、その祈りの中から、司祭・修道者の召し出しが生まれてきた長崎の教会でした。

先日、教会 学校で、子どもたちに尋ねました。「自分の家に、十字架か、マリア様のご像がある人たちは手を挙げて」と。すると、寂しいかな、手を挙げる子どもたちの少ないこと……。

今時の子どもたちが置かれてある住宅環境・家庭事情では、ある意味仕方のないことかもしれない。であるとするなら、家族が一つ同じ場所に集まり、祈りをささげるなどなおさら難しいことでありましょうか。それでも、せめて、家庭に十字架一つ、マリア様のご像一つ。そう願うのは無理なことでしょうか。

の境内地に建つ旧羅興神学校と旧大司教館を日本キリシタン博物館(仮称)として活用することが可能か、建築の専門家や関係者を交えて具体的に検討していることが報告された。旧大司教館の長崎コレジオは今年度で閉鎖され、来年度から福岡コレジオに完全に移行されることになっている。これに関連して、長崎教区の歴史・文化遺産を通して福音宣教が推進されるよう「教会歴史文化遺産評議会」(仮称)の設立準備が進められていることが報告された。

## 長崎純心聖母会創立80周年



6月8日18時、修道会創立80周年を記念するミサが大浦天主堂で行われた。記念ミサには、国内の各修道院の院長と長崎県内の修道院から約150人の会員たちが集まった。長崎純心聖母会は1934(昭和9)年6月9日、最初の邦人司教、ヤヌワリオ早坂久之助長崎司教によって、シスター江角ヤス

## 比教会関係者が来崎

ミサで祈りをささげた。長崎在住のフィリピン共同体の一人は「普段、日曜日のミサは西坂教会に行っています。今日は、母国の司教様や神父様に会え、一緒にミサ

巡礼ツアーの新規造成を目的とした長崎県観光連盟の招きにより、フィリピンの教会関係者とキリスト教関連メディアが6月12-17日に来崎、平戸や長崎を巡った。一行は、聖ロレンソ・ルイス(十六聖人の一人)教会やフィリピンカトリック司教協議会メディア部門に関わる司教、司祭ら計7人。平戸ザビエル記念教会や黒瀬の辻殉教地、また大浦天主堂や浦上、西坂を訪れ、中町教会では信者らと共に英語

講演の始めに高見三明大司教と田上富久市長からあいさつがあり、山崎さんへの感謝と励ましの言葉が送られた。続いて3部構成で上映会があり、一八八殉教者列福式(2008年)翌日の11月25日に行われたミサと巡礼の様子や、宗教を問わず巡礼を希望した人々との心の触れ合いの様子などが映し出された。

3時間に及ぶ講演を終え、参加者からは「感動、感激した」との声が多く寄せられた。山崎さんは感謝を述べ、「教区の巡礼地となり、多くの方に福者の取り次ぎを求めて巡礼していただくなら幸いです」と語った。

講演の始めに高見三明大司教と田上富久市長からあいさつがあり、山崎さんへの感謝と励ましの言葉が送られた。続いて3部構成で上映会があり、一八八殉教者列福式(2008年)翌日の11月25日に行われたミサと巡礼の様子や、宗教を問わず巡礼を希望した人々との心の触れ合いの様子などが映し出された。

3時間に及ぶ講演を終え、参加者からは「感動、感激した」との声が多く寄せられた。山崎さんは感謝を述べ、「教区の巡礼地となり、多くの方に福者の取り次ぎを求めて巡礼していただくなら幸いです」と語った。

講演の始めに高見三明大司教と田上富久市長からあいさつがあり、山崎さんへの感謝と励ましの言葉が送られた。続いて3部構成で上映会があり、一八八殉教者列福式(2008年)翌日の11月25日に行われたミサと巡礼の様子や、宗教を問わず巡礼を希望した人々との心の触れ合いの様子などが映し出された。

3時間に及ぶ講演を終え、参加者からは「感動、感激した」との声が多く寄せられた。山崎さんは感謝を述べ、「教区の巡礼地となり、多くの方に福者の取り次ぎを求めて巡礼していただくなら幸いです」と語った。

講演の始めに高見三明大司教と田上富久市長からあいさつがあり、山崎さんへの感謝と励ましの言葉が送られた。続いて3部構成で上映会があり、一八八殉教者列福式(2008年)翌日の11月25日に行われたミサと巡礼の様子や、宗教を問わず巡礼を希望した人々との心の触れ合いの様子などが映し出された。

3時間に及ぶ講演を終え、参加者からは「感動、感激した」との声が多く寄せられた。山崎さんは感謝を述べ、「教区の巡礼地となり、多くの方に福者の取り次ぎを求めて巡礼していただくなら幸いです」と語った。

講演の始めに高見三明大司教と田上富久市長からあいさつがあり、山崎さんへの感謝と励ましの言葉が送られた。続いて3部構成で上映会があり、一八八殉教者列福式(2008年)翌日の11月25日に行われたミサと巡礼の様子や、宗教を問わず巡礼を希望した人々との心の触れ合いの様子などが映し出された。

## 感謝

- ― 寄付 ―
- 長崎カトリック神学院
- 本尾町1、2地区 婦人部様(浦上)
- 匿名様(浦上)
- ― 香典返し ―
- 長崎大司教区
- 川口佐平様(冷水)
- 故マリア川口カホ様
- 長崎コレジオ
- 龍甲屋浩治様(中野)
- 故ヨゼフ龍甲屋俊雄様
- 長崎カトリック神学院
- 小西祥子様(深堀)
- 故パウロ小西久美様
- 本村信子様(城山)
- 故ペトロ本村春男様
- 龍甲屋浩治様(中野)
- 故ヨゼフ龍甲屋俊雄様
- 岩波美佐子様(浦上)
- 故ペトロ岩波俊介様
- 谷口久美子様(出津)
- 故ヨセフ谷口敏光様

右の方々から「寄付・ご芳志を賜りました。お礼」と報告を申し上げます。

## 教区本部事務局人事

局長(▲丸尾信枝 (前局長秘書) ▲渡辺 洋子(前東日本支援)

新任 事務局次長 下野英知(前事務局員) ▲福音化推進部秘書 小坪玉美(新採用)

退職 佐々主任 小瀬良明(前事務局員) ▲時津主任 古木真理一(前事務局員)

移動 局長秘書 宮崎善信(前福音化推進部秘書) ▲東日本支援 松尾勝(教区評議会兼任)



## 長崎で初めての朝祷会

プロテスタント宣教155周年を機に



の軌跡(長崎プロテスタント宣教155年の歩み)と題する写真展(長崎キリスト教協議会主催)が東山手甲十三番館で行われ、期間中、多くの人が足を運び、長崎におけるプロテスタント教会の歴史を知る機会を得た。

日本における最初のプロテスタント教会の宣教は、1859年に長崎で始まり今年155年を迎えた。これを記念する礼拝が5月10日15時から日本キリスト教団長崎教会(長崎市大浦町、福田英樹牧師)で行われ、プロテスタントだけでなくカトリックからも信者が参加した(写真)。

また、カトリック、プロテスタントの教派を超えて祈りと食事を共にする「朝祷会」が、5月21日7時から大村市の大村古賀島キリスト教会(日本バプテスト連盟・丸田和彦牧師)で行われた。長崎での実施は今回が初めて。カトリックから教区エキュメニズム・諸宗教委員長の野下千年師他地元信徒とシスターら合わせて5人と、プロテスタ

ントから信者ら15人が参加し、約40分の祈りの後、皆で朝食をとり交流した。「朝祷会」は今後も続

## コラール長崎演奏会

6月15日に第2回コラール長崎演奏会「オルガンとコラールによる賛美のこころ」が浦上教会で開催された。

まず松本俊穂氏(純心大学教授)によるオルガン独奏があり、続いて高田裕和師(小ヶ倉教会)の独唱が楽廊から朗々と歌われ、聴衆を魅了した。次にコラール長崎のメンバーが祭壇前に登場し「ドイツミサ」の合唱が平本義和師(天神教会)の指揮でドイツ語と日本語で演奏された。全9曲中、3曲は「カトリック聖歌集」の中に収録されているものである。



演奏会の後半はお告げのマリア修道会の有志も加わり、「聖務日課」(教会の祈り)を当日の三位

## 公開聖書講座

6月26日、高見三明大司教を講師に迎え、カトリックセンターにおいて公開聖書講座が行われた(教区生涯養成委員会主催)。テーマは「キリストを信じる」とは。

高見大司教はフィリピの信徒への手紙の背景を説明した後、受講者にどのような時に喜びを感じるかと問い掛け、キリストを信じる者の喜びについて丁寧な説いた。キリストを知ること、キリストと切っても

## 大槌ベースボランテニア募集

|                   |            |
|-------------------|------------|
| ●9月18日(木) 24日(水)  | (9/1 締切)   |
| ●10月16日(木) 22日(水) | (10/1 締切)  |
| ●11月13日(木) 19日(水) | (10/29 締切) |
| ●12月11日(木) 17日(水) | (11/26 締切) |
| ●1月15日(木) 21日(水)  | (12/24 締切) |

申し込みは所属小教会へ。問い合わせは教区本部事務局(松尾)まで。

TEL 095・842・4450  
FAX 095・842・4460

## お知らせ

第12回聖書愛読運動 期間は2014年5月25日(土)から5月28日(火)まで、朗読箇所は新約聖書から。各小教会において適宜、期間と箇所を選定してください。教区評議会

## いごう園

▼原爆・すべての戦争犠牲者追悼ミサ 8月6日(水)8時、浦上教会被爆マリア小聖堂。教区平和推進委員会主催。

▼原爆殉難者慰霊祭 8月8日(金)19時、長崎市松山町原爆落下中心地。雨天はカトリックセンター。長崎県宗教者懇話会主催。

▼原爆犠牲者のためのスピリチュアルコンサート 8月8日(金)19時、浦上教会。エリザベト音楽大学同窓会フォーレ・レクイエム実行委員会主催。

▼平和祈願祭 8月9日(土)18時30分、平和公園集合。20時から浦上

## 第13回 召命祈願ミサ

「召命はイエスのみ心への招き」

第13回召命祈願ミサが6月27日、山脇守師(長崎コレジオ院長)主司式により大浦天主堂で行われ、神学生、志願生、信者が召命の實際を願い、祈りをささげた。



今年3月に司祭叙階の恵みを受けた川端志範師(浦上教会)は説教の中で、自身の召命の原点や浦上教会での体験に基づく気持ちに触れるとともに、「イエスのみ心」の祭日にあたって次のように話した。「イエスのみ心とは愛すること。愛するとは、ささげる・与えること。与えることは自分だけが損している、あるいは理解してもらえないという苦しみを伴うこと

教会でミサ。

▼NAGASAKI平和を願うコンサート 8月10日(日)13時、田平教会。教区平和推進委・同コンサート実行委主催。

▼イエズス会立山修道院お知らせ ●祈りの一日 ①8月13日(水) ②8月16日(土) ③9月17日(水) 10時15時半。●8日間の霊操 ①8月1日(金)10日(火) ②8月10日(日)19日(火) ③8月19日(火)28日(木)。

▼聖母平和祈願祭 8月15日(金)13時、アルカスSASEBO。

▼教区結婚講座 9月2日(土)11月4日の毎週火曜日。19時21時。カトリックセンター。申込先・教区家庭特別委員会。

TEL 095・842・4450

▼大村殉教祭 9月7日(日)13時、大村市民会館。

▼福者カミロ・コンスタンツ殉教祭 9月21日(日)14時、田平町焼罪跡公園。雨天時、田平教会。

▼聖トマス西と十五殉教者ミサ 9月28日(日)14時、中町教会。

「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」世界遺産登録推進コンサート

## 世紀を越えた歴史ロマン

2014.8.23(土) 18:00 開場 / 18:30 開演  
平戸文化センター 大ホール (平戸市岩の上町)

指揮 \* 西本智実  
管弦楽 \* イルミナートフィルハーモニーオーケストラ  
合唱 \* 平戸でオラショと第九を歌う会  
曲目 \* 「オラショ」  
交響曲第九番 (ベートーヴェン作曲・合唱付)  
入場料 \* S席 4,000円 (小中高生 2,000円)  
A席 3,000円 (小中高生 1,500円)

チケット販売 \* チケットぴあ、イープラス、平戸市文化交流課  
問合せ先 \* 平戸市文化交流課 ☎(0950)22-4111 (内線 2277)  
主催 \* 世界遺産登録推進コンサート実行委員会

## (医) 外尾内科医院

院長 ペトロ 外尾 明利

〒857-1152 佐世保市黒髪町34-4

TEL 0956-33-5557

石碑  
納骨堂  
墓地工事

なが さき せき ちょう  
**長崎石彫**

ヨゼフ 岩永 博明

☎(095)862-2469

長崎市梁川町 6-17 岩永ビル

## 一 高見大司教様と行く一

### 秋のクロアチア・スロベニア巡礼10日間

同行 高見 三明 大司教様  
期間 2014年10月8日(水)~10月17日(金)  
旅行代金(お一人様・2名様一部屋利用・羽田発着)  
458,000円(燃油サーチャージ・空港諸税は別途必要です。)  
※詳しい旅行条件を説明したパンフレットを用意しておりますので事前にご確認の上、お申し込みください。

パンフレットのご請求・巡礼についてのお問い合わせは  
〒153-8589  
東京都目黒区青葉台3-6-28 住友不動産青葉台タワー  
(株)阪急交通社 東京団体支店「巡礼センター」  
☎(03)6745-7370 Fax(03)6745-7371  
e-mail junrei-tyo@hei.hankyu.co.jp  
<http://www.hankyu-travel.com/kikaku/vec/>

阪急カトリック巡礼 検索 ホームページから巡礼のご予約がいただけます。